

相模湾から採集されたシラユキウミウシ属 (軟体動物門：裸鰓目：イロウミウシ科) について

倉持 敦子・倉持 卓司

Atsuko Kuramochi and Takashi Kuramochi:
The Genus *Noumea* (Mollusca: Nudibranchia: Chromodorididae)
Collected from the Coast of Sagami Bay, Central Japan

はじめに

シラユキウミウシ属はイロウミウシ科の一群であり、Rudman (1984) や Johnson & Gosliner (2012) により属の再定義と分類学的な再検討が行われた種群である。相模湾に生息するシラユキウミウシ属については、馬場 (1949) や Baba (1987) により 4 種が記録されている。本報告では、筆者らの調査により新たに相模湾から採集されたシロウサギウミウシ *Noumea simplex* (Pease, 1871) と、これまでに相模湾より記録されたシラユキウミウシ属について報告する。

検討試料および方法

検討試料は、三浦半島相模湾沿岸域において、磯採集により得られた試料と文献記録を用いた。採集された標本は、基本的には野外で生時の状態を写真撮影後、70% エタノールで固定を行い、馬場 (1949)、Baba (1987) および、Rudman (1984, 1986) を参考に外部形態に基づき種を同定した。また、採集された標本および文献記録をもとに、これまでに相模湾から報告されているシラユキウミウシ属を整理した。シラユキモドキ *Noumea subnivalis* Baba, 1987 およびシラユキウミウシ *Noumea nivalis* Baba, 1937 の 2 種については、飼育個体から得られた卵塊の形状と、飼育下における発生過程を観察した。

結果

本調査の結果、相模湾沿岸域より初記録のシロウサギウミウシを含め 5 種が記録された (表 1)。

シラユキウミウシ属 Genus *Noumea* Risbec, 1928

シロウサギウミウシ *Noumea simplex* (Pease, 1871)
(図 1a)

検討試料

2012 年 7 月 17 日 三浦市矢作海岸 潮間帯 1 個体

記載：体長 4.2 mm。背面および腹足は白色。外套縁右側 2 箇所断片的な赤い縁取りがある。触角は鮮赤色。鰓葉は 7 葉で上部は触角と同じ鮮赤色、下部は半透明白色。背面に斑紋はなく、尾端は彩色されない。

比較

南太平洋フレンチポリネシアの Maiao Island をタイプ産地として記載された (Pease, 1871) 本種は、太平洋の熱帯・亜熱帯海域に広く分布し、日本列島周辺海域では、東京都八丈島と沖縄県座間味島から記録されている (中野, 2004; 小野, 2004)。

シロウサギウミウシに類似する同属のシラユキウミウシ *N. nivalis* Baba, 1937 (図 1b) は、外套縁が黄色に縁取られ、その内側に白い斑紋が現れる。触角の先端寄り半分は橙色、基部寄り半分は白色、鰓葉は白色で先端部が橙色に彩色され、背面は白色で橙色の小斑紋が散在することで異なる。シラユキモドキ *N. subnivalis* Baba, 1987 (図 1c) は、外套縁の外側が橙色、内側は黄色の 2 色で縁取られ、触角は赤紫色、鰓葉は白色となることで本種と区別される。外見上よく似た別属のシラヒメウミウシ *Chromodoris sinensis* Rudman, 1985 (図 1d) は、外套縁の外側が赤紫色、内側は黄色の 2 色で縁取られ、触角と鰓葉は赤紫色になることで区別される。シロウサギウミウシは、体色に若干の差異がみられ、Pease (1871) では、体色は全体的に淡い桃色と記述されている。

表 1. 相模湾より記録されたシラユキウミウシ属の比較

種名	体地色	外套縁	鰓	触角
シロウサギウミウシ <i>Noumea simplex</i> (Pease, 1871)	白色	白色	鮮赤色	鮮赤色
シラユキウミウシ <i>Noumea nivalis</i> Baba, 1937	白色に橙色の小斑紋	黄色で内側に白色の斑紋	白色で先端部のみ橙色	先端寄り半分は橙色 基部寄り半分は白色
シラユキモドキ <i>Noumea subnivalis</i> Baba, 1987	白色	外側から赤紫色・橙色の2色	白色	赤紫色
ヒメイロウミウシ <i>Noumea parva</i> Baba, 1949	紫褐色に暗色の斑紋	紫褐色	紫赤色	紫赤色
フジイロウミウシ <i>Noumea purpurea</i> Baba, 1949	紫赤色に白の縦帯	黄色	朱色	朱色

シラユキウミウシ *Noumea nivalis* Baba, 1937 (図 1b)

検討試料

2012 年 7 月 5 日 三浦市矢作海岸 潮間帯 1 個体

記載：体長 6.5 mm。体色は白色，外套縁は黄色に縁取られ，その内側に白色の斑紋がある。触角の先端寄り半分は橙色，基部寄り半分は白色。鰓葉は白色で先端部が橙色に彩色される。背面には橙色の小斑紋が散在し，尾端は黄色に彩色される。

シラユキウミウシは，Baba (1937) により天草をタイプ産地として記載された。これまでに相模湾沿岸域からは Baba (1937)，馬場 (1949) および 萩原 (2006) により横須賀市佐島カサゴ根，天神島，笠島，葉山町鮫島，名島，逗子市から記録されている。また，立川 (2007) により千葉県館山市沖の島からも記録されている。

本種は白色のリボン状卵塊を産み，室温 28～30℃ の飼育条件下では 5～6 日でベリジャー幼生として孵化することが観察された。

シラユキモドキ *Noumea subnivalis* Baba, 1987 (図 1c)

検討試料

2010 年 8 月 23 日 横須賀市佐島 水深 3 m 1 個体

記載：体長 30.1 mm。体色は白色，外套縁は外側が赤紫色，内側は橙色の 2 色からなる。触角は赤紫色。鰓葉は白色。背面に小斑紋はない。

シラユキモドキは，Baba (1987) により富山湾小木をタイプ産地として記載された。馬場 (1949) にシラユキウミウシとして図示 (text-fig. 61, pl. 19, fig. 68) された標本は，Baba (1987) ですでに指摘されている通

り，*N. nivalis* Baba, 1937 ではなく，本種に同定される。これまでに相模湾沿岸域からは Baba (1987)，萩原 (2006) により横須賀市天神島，笠島，葉山町鮫島，逗子市から記録されている。

本種は黄色いリボン状の卵塊を産み，室温 28～30℃ の飼育条件下では約 24 時間で囊胚期に達し，約 48 時間後にトロコフォア期を経て産卵から 3 日後には初期ベリジャーとなり，5～6 日後に殻長 110～170 μm のベリジャー幼生として孵化することが観察された。

ヒメイロウミウシ *Noumea parva* Baba, 1949

記載：体長 2.0 mm。体色は紫褐色で，背面には暗色の斑紋を散布する。触角と鰓葉は紫赤色 (馬場，1949)。

本種は，馬場 (1949) により相模湾葉山名島テゴ島割島中間をタイプ産地として記載されたが，原記載以後，採集標本に基づく記録はない。

フジイロウミウシ *Noumea purpurea* Baba, 1949

記載：体長 12.0 mm。体色は紫赤色，背面の正中線上に両触角の中間から鰓の直前まで達する白色の縦帯がある。外套縁は黄色。触角と鰓葉は朱色 (馬場，1949)。

本種は，馬場 (1949) により相模湾葉山諸地，浅所を産地として記載された (タイプ産地の指定はない)。萩原 (2006) による横須賀市天神島・笠島からの記録がある。

考 察

本調査の結果，原記載以後，記録のないヒメイロウミウシを含め相模湾沿岸域からはシラユキウミウシ属として 5 種が記録された。本属を含むイロウミウシ科

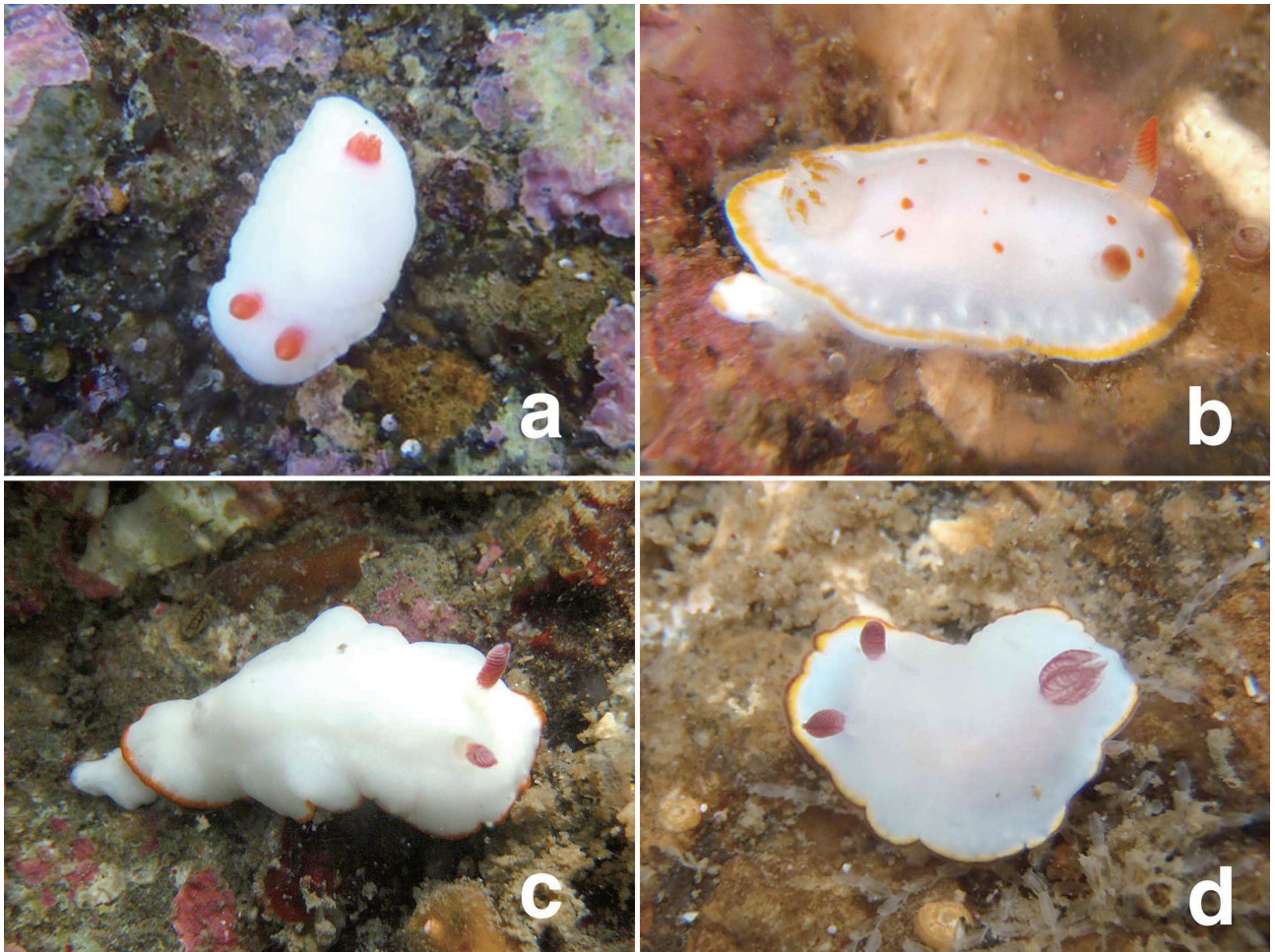


図1. a. シロウサギウミウシ *Noumea simplex* (Pease, 1871) (三浦市矢作海岸), b. シラユキウミウシ *N. nivalis* Baba, 1937 (三浦市矢作海岸), c. シラユキモドキ *N. subnivalis* Baba, 1987 (横須賀市佐島), d. シラヒメウミウシ *Chromodoris sinensis* Rudman, 1985 (三浦市矢作海岸).

には 244 種が含まれ、このうちシラユキウミウシ属には有効名と考えられる 22 種が含まれている (Johnson & Gosliner, 2012)。Baba (1987) は、日本周辺海域より記録されるシラユキウミウシ属の種数をまとめ 4 種としたが、その後のダイバーなどによる観察記録から、未同定種を含め少なくとも 13 種 (ヘリシロイロウミウシ *N. angustolutea* Rudman, 1990, サフランイロウミウシ *N. crocea* Rudman, 1986, シラユキウミウシ, *N. laboutei* Rudman, 1986, アラリウミウシ *N. norba* Marcus & Marcus, 1970, フジイロウミウシ, シロウサギウミウシ, キベリアカイロウミウシ *N. varians* (Pease, 1871), シラユキモドキ, シロタスキウミウシ *N. alboannulata* Rudman, 1986, ヤマブキウミウシ *N. flava* (Eliot, 1904), フジムスメウミウシ *N. romeri* Risbec, 1928, *N. aureopunctata* Rudman, 1987) 以上が日本周辺海域に分布していると推測されている (濱谷, 2000; 中野, 2004; 小野, 2004)。本属には、原記載以後の採集記録がないヒメイロウミウシや、未記載種などが含まれていることから、分類学的な再検討が必要と考えられる。

引用文献

- Baba, K., 1937. Opisthobranchia of Japan (II). *Journal of the Department of Agriculture Kyushu Imperial University*, 5(7): 289-344.
- 馬場菊太郎, 1949. 相模湾産後鰓類図譜. 生物学御研究所編, 194 pp. (incl. 161 text-figs.), 50 pls. 岩波書店, 東京.
- Baba, K., 1987. A new species of *Noumea* from Ogi, Toyama Bay and vicinity Japan (Nudibranchia: Chromodorididae). *Venus*, 46(1): 19-24.
- 萩原清司, 2006. 横須賀市天神島・笠島周辺海域の後鰓類 (軟体動物: 腹足綱). 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), (53): 19-32.
- 濱谷 巖, 2000. 後鰓類. 奥谷喬司 編著, 日本近海産貝類図鑑. pp. 790-791, 東海大出版会, 東京.
- Johnson, R. F., & T. M. Gosliner, 2012. Traditional taxonomic groupings mask evolutionary history: A molecular phylogeny and new classification of the chromodorid nudibranchs. *PLoS ONE*, 7(4): e33479.
- 中野理枝, 2004. 本州のウミウシ. 304 pp. ラトルズ, 東京.
- 小野篤司, 2004. 沖縄のウミウシ. 304 pp. ラトルズ, 東京.
- Pease, W. H., 1871. Descriptions of new species of nudibranchiate Mollusca inhabiting Polynesia. No. 2. *American Journal of Conchology*, 7(1): 11-19, pls 3-9.

Rudman, W. B., 1984. The Chromodorididae (Opisthobranchia: Mollusca) of the Indo-West Pacific: a review of the genera. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 81(2/3): 115-273.

Rudman, W. B., 1986. The Chromodorididae (Opisthobranchia: Mollusca) of the Indo-West

Pacific: *Noumea purpurea* and *Chromodoris decora* colour groups. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 86 (4): 309-353.

立川浩之, 2007. 海の生き物観察ノート 5 に掲載された千葉県産後鰐類に関する補遺. 千葉立中央博物館 自然誌研究報告, 9(2): 63-71.

倉持敦子・倉持卓司：横須賀市芦名 2-6-3-504